



楽しいよ！ サタデーふれあいスクール

スポーツや遊びを通して、 子どもと大人が交流

～月1回、一色小学校で開催～

学校が休みになる土曜のひとときを、スポーツや遊びを通して子どもたちにも有意義に過ごしてもらおうと、月一回、「サタデーふれあいスクール」が開かれるようになって、もうじき一年。

会場の一色小学校には毎回、多くの子どもたちが集い、ボランティアで指導に当たる地域の講師の皆さんと交流を深めながら、囲碁や将棋、マジック（手品）、ハンドベルの演奏、バドミントン、また手軽なスポーツや各種の遊びなどを心ゆくまで楽しんでいきます。

サタデーふれあい スクールとは：

平成十四年春からの学校五日制の実施で、新たに土曜日が休みになったことにもない、文部科学省は中央教育審議会の答申を受けて、地域の教育力の活性化と奉仕・体験活動を総合的に推進するための補助事業を展開しています。

その一つである「子ども週末活動等支援事業」を受け、町が昨年六月から新たに始めたのが「サタデーふれあいスクール」です。現在は、一色小学校 余裕教室・校庭・体育館で開催しています。

サタデーふれあいスクールには、そ

の名の通り、地域の講師の皆さんや仲間たちとの楽しい遊びやふれあいを通して、いろいろな体験ができる各種の教室が用意されています。

現在の教室は、「囲碁・将棋」・「マジック」・「ハンドベル」・「バドミントン」・それに「自由遊び」の五つ。自由遊びの教室は、いつでも自由に参加できるオープン型ですが、それ以外の教室は継続性が必要なため、原則として昨年六月に募集した受講生だけの参加となっています。

囲碁・将棋教室

まずは一色小学校の新館三階で開かれている囲碁・将棋教室から。ドアを



▲大人も子どもも真剣です

開けて中へ入ると、室内は静寂そのもの。パチン、パチンと碁石や駒の音だけが響きます。

地域講師の稲守六郎さんを相手に、真剣な表情で囲碁の対局をしているのは、一色小学校の男子児童。テレビで見た人気囲碁アニメの主人公にあこがれて、碁を習い始めたそうです。

囲碁歴はまだ一年ちよつとですが、サタデーふれあいスクールの囲碁・将棋教室を知って、さっそく入門。地域講師をつとめる町老人クラブの囲碁・将棋同好会「好友会」のお年寄りたちの手ほどきを受けながら、腕を磨いてきました。

盤面に碁石を置くと、稲守さんがニコニコ笑いながら「オッ、なかなかや

るねえ」。続けて「碁で一番大事なのは目を作る。それを忘れないで」と、やさしく解説していきます。

囲碁・将棋教室では、参加した子どもたちが囲碁班と将棋班に分かれ、好友会の役員五人が手分けして、基礎から懇切に指導にあたっていきます。中には六月から無欠席の熱心な子もいて、稲守さんたちも「我々と違って、子どもたちは上達が早い。この中からプロ棋士をめざすような子が出てくれればうれしいねえ」と目を細めています。

マジック(手品)教室

次は同じ階のマジック教室へ。ここでは小学生たちが、紙コップを使ったテーブルマジックに挑戦中です。

その一人、葉山小学校の男子児童はマジックが大好き。テレビで見たマジシャンたちの妙技にひかれ、「僕もやってみよう」と教室に参加しました。家でもよく練習をしているそうで、手つきもなかなか鮮やか。もう立派な手品師です。

この教室で教えているのは、アマチュアのマジック愛好家で結成している「葉山マジックファンクラブ」のメンバーの皆さん。この日は会長の八巻祥郎さんと会員の安西富美子さんの二人が熱心に指導にあたっていました。



▲子どもたちは、もう立派な手品師です

子どもたちに教えているのは、主にトランプやシルク(布)、ロープなどを使った簡単なマジックですが、みんな飲み込みが早く、メキメキと上達。昨秋の町の文化祭では、三人の子どもたちがマジックショーに初出演して、拍手喝さいを浴びました。

「大勢の人の前でマジックをやったのは初めて。どきどきしたけど、とても面白かった」と、目を輝かせる子どもを前に、この一年、指導を続けてきた八巻さんも「ふだん子どもたちがマジックを体験できる機会はそうない。このサタデースクールができて、私たちも大変うれしい」と語っています。

ジュニア・

ハンドベル教室

二階へ降りると、奥の教室から美しい音楽の調べが流れてきます。ここで開かれているのが「ジュニア・ハンドベル教室」。

『天使のハーモニー』とも称されるハンドベルは、日本ではまだなじみの薄い楽器ですが、「美しい音色を葉山の子どもたちに」と願う音楽サークル「クロシェット・ドール・HAYAMA」の皆さんの全面協力で、教室が実現しました。

現在、ここに参加しているのは男子三人を含む十三人の子どもたち。大小様々なハンドベルを白い手袋をはめた両手に持ち、全員が横一列に並んで、練習に余念がありません。

地元でおはやしの小太鼓を担当しているという上山口小学校の女子児童は、「サタデーふれあいスクールにはいろいろな教室があったけど、これが一番おもしろそうだったから」と、迷わずハンドベル教室を選びました。今ではすっかりその魅力にはまり、家でも棒をベル代わりにして練習に励んでいるそうです。

ハンドベルの演奏を通じた子どもたちとのふれあいは、指導に当たっている「クロシェット・ドール・HAYAMA」の皆さんにとっても、大きな喜



▲ハンドベルは天使のハーモニー

びの一つです。「ハンドベルが大好きな多くの子どもたちと練習ができて、本当にうれしい。子どもは覚えが早いので、これからが楽しみ」と、世話役の伊東宥子さん。サタデーふれあいスクールをきっかけに、ハンドベルの輪が大きく広がることを夢見ています。

自由遊びの教室

一方、校庭では自由参加の子どもたちが集まり、自由遊びの教室がにぎやかに開かれています。この日の遊びは、ティーボールやグラウンドゴルフなど。ティーボールでは、子どもたちが地



▲ねらいを定めて…

面に立てた棒の上に置いたボールを野球のバットで打ち、「ヒットだ。走れ、走れ」と歓声を上げながら、校庭を走り回ります。子どもたちの額には汗が光り、みな元気いっぱいです。

自由遊びの教室は、町の体育指導委員と青少年指導委員が交代で地域講師役をつとめ、子どもたちと一緒に手軽なスポーツやコマ回し、竹馬といった昔遊びなどを楽しんでいます。

この日は、町体育指導委員会副会長の宮川清さんら四人の体育指導委員が参加。子どもたちと一緒に混じって、心地よい汗を流しました。

自由遊びの教室は屋外で開くことが多く、一番心配なのは子どもたちのケガです。そのため、宮川さんたちは「安全で楽しく」をモットーに、常に

目配り、気配りを怠りません。こうした地域講師の皆さんに支えられて、子どもたちも伸び伸びとスポーツや遊びに興じる姿は、実に楽しそう。自由遊びの教室に、毎回参加しているという葉山小学校の男子児童は、「いろいろな遊びが体験できて、とってもおもしろい。サタデーふれあいスクールって、僕、大好きです」と笑顔で話してくれました。

ジュニア・バドミントン教室

他の教室の終了後、体育館で開催されているのが、ジュニア・バドミントン教室です。

バドミントンは子どもの人気も高く、現在三〇人の小学生が参加しています。この教室は他の教室とは異なり、毎週開催しています。地域でスポーツに

親しみ、体力づくり・仲間づくりをするとともに、バドミントンの基礎を学び、楽しくプレイすることを目的としています。

指導は、ジュニアバドミントンクラブの多田英二さんら四人のスタッフがあたっています。

「毎週開催しているにもかかわらず、出席率が良く、土曜日を心待ちにしている子どもいます。子どもたちのフットワークも良くなり、ゲームも楽しくな

りましたね」とスタッフの一人廣瀬みね子さん。

四月からは、中学校の部活動で競技としてのバドミントンを続ける子、ジュニアバドミントンクラブに入って楽しくプレイを続ける子もいるようです。この教室には、中学生が指導の手伝いに来てくれていたのも特徴のひとつです。

地域の大人とのふれあい、小学生と中学生のふれあい。そしてこの教室を通してできた仲間たちとのふれあい。最終日には、ゲーム大会で思い出づくり。楽しいよ！サタデーふれあいスクール。



▲ジュニア・バドミントン教室の熱心な指導